２．各学科等の教員養成に対する理念

(1) 文学部国文学科（中一種免（国語）・高一種免（国語））

国文学科では、本学の教員養成の理念を基礎にして、中学校・高等学校教員の養成を長年にわたって行ってきました。京都を中心とする近畿の府県のみならず、全国の都道府県において、本学科出身の多数の教員が教壇に立ち、成果を社会全般に還元しています。日本における教育環境の変化、教員に求められる役割の変遷に応じて、求められた責務を果たすことのできる優秀な教員の養成に取り組んでいます。

本学科では、現代社会における国語教育の重要性を鑑み、また、現代文、古文、漢文と、広範な教材に対応できるように、一年次から各分野・各時代の専門知識を習得できるカリキュラムを組み、高度なレベルですべてに対応できる教員の育成を目指しています。国語の基礎となる、日本語の言語としての機能については、国語学の講義・演習を設けることによって対応しています。また、多様な教育問題に直面している教育現場において、「学び続ける教師」として積極的に教育問題に対応できるよう、本学教育学専攻担当教員と連携し、十分な教員育成環境を備えています。

学業レベルの向上のみならず、人（自分）が生きるということはどういうことなのか、について文学を通じて常に問いかけ、学生自身で問題点を見出だし、考察する訓練を通じて、すべての生活の基礎となる国語力を伸展させることで、教員となったときの、さまざまな現場での問題、就中、生徒との対話という問題に対処できる教員として送り出すことを目標に掲げ、教育を行っています。

(2) 文学部英文学科（中一種免（英語）・高一種免（英語））

英文学科は、本学の教員養成の理念を基礎にして、高い英語力及び言語としての英語や英語圏の文化・文学などに関する豊富な知識を身に付けた中学校・高等学校の英語教員を養成することを目指しています。その成果として、これまで関西だけでなく全国に向けて多数の教員を送り出してきましたが、現在も英語教育を専門とする専任スタッフを中心に、時代の要請に応えられる英語教員の養成に努めています。

本学科では、半期留学制度により、教職を志望する多くの学生が、英語によるコミュニケーション能力を体験的かつ飛躍的に伸ばす機会を提供しています。英語教育関連の科目において、英語教育の理論と授業実践の融合を図り、小学校における外国語活動をも視野に入れて小中連携についても配慮しています。さらに、養成する教員の質を保証するために、一定の英語力を有し、真に教員になり社会に貢献したいという強い意志のある学生のみが教職課程を履修するように指導しています。

今後も、教職科目と英文学科が提供する多様な科目を有機的に組み合わせることによって、英語教員としての力を初年度から発揮し、生涯にわたって主体的に学修を継続していく態度を身に付けさせる指導体制を整えていきます。

(3) 文学部史学科（中一種免（社会）・高一種免（地理歴史））

史学科では、本学の教員養成の理念を基礎に、中学校（社会）・高等学校（地理歴史）教員の養成において長い歴史を持ち、京都を中心とする近畿圏のみならず、全国に多数の教員を送り出し、その成果を社会全般に還元しています。日本における教員養成の変遷に応じて、それぞれの時代に求められる優れた教員養成のための改革にも、積極的に取り組んでいます。

本学科では、現代社会の中学・高等学校の一貫教育が求められる状況から、教職志望の学生に対して中学校一種免（社会）・高等学校一種免（地理歴史）を取得し、都道府県によっては学芸員資格が求められるため、これをあわせて取得するよう勧めるなど、より幅広い専門知識を有する教員としての基礎資質の育

成を目指しています。歴史学・地理学・民俗学・考古学・政治学・経済学・宗教学・倫理学など、社会科教育・地理歴史教育に必要な多角的視野からの基礎知識とともに、史学科カリキュラムにおける歴史学研究の専門的知識・研究技術の修得により裏付けられた、たんに社会科や歴史地理の知識を伝達するだけでなく、それらを学ぶ意義を伝えることができる、社会科・歴史地理の教育者としての基本的資質を修得することを目指しています。

また、多様な教育問題に直面している教育現場において、「学び続ける教師」として積極的に教育問題に対応できるよう、本学における教育学専攻の科目の履修、教育学専攻担当教員との連携により、教員免許状取得に要求される十分な教員育成環境を備えています。

（4）発達教育学部教育学科教育学専攻（幼一種免・小一種免）

◇幼一種免

教育学専攻では、本学の教員養成の理念を基礎に小学校教諭とともに幼稚園教諭の養成においても長い歴史を持ち、京都を中心とする近畿圏のみならず、全国に実に多数の教員を送り出し、その成果を社会全般に還元しています。日本における教員養成の変遷に応じて、それぞれの時代に求められる優れた教員の養成のための改革にも、積極的に取り組んでいます。

本専攻では、現代社会の状況から幼小一貫教育の必要性を踏まえ、大部分の学生が幼稚園一種免許状とともに小学校一種免許状をも取得し、幼稚園教育と小学校教育の連携にかかわる「小 1 プロブレム」等の問題にも対応できる教員としての基礎資質の涵養を目指しています。多様な教育問題に直面している教育現場において、「学び続ける教師」として積極的に教育問題に対応できる専門性を確立するために、教員免許状取得に必要とされる最低レベルのカリキュラムに加えて教育学専攻独自の科目群を配置するとともに、教育実習を複数校(附属小学校実習を含め)で行う体制をとっています。

さらに、近隣教育委員会との連携により、教育現場体験を積極的にとれる方策を行っています。教員になった 1 年目から教師としての諸能力を発揮できるとともに、その能力を生涯にわたり伸ばし続けることのできる教師(「学び続ける教師」)の育成こそが、教育学専攻の教育理念であり、目標でもあります。

◇小一種免

教育学専攻では、本学の教員養成の理念を基礎にして、小学校教諭養成において約 100 年の歴史を持ち、京都を中心とする近畿圏のみならず、全国に実に多数の教員を送り出し、その成果を社会全般に還元しています。日本における教員養成の変遷に応じて、それぞれの時代に求められる優れた教員の養成ための改革にも、積極的に取り組んでいます。

本専攻では、小学校教育における様々の問題に取り組み解決できる能力を身に付けるために、大部分の学生が小学校一種免許状に加えて、幼稚園一種免許状を取得しています。幼稚園教育と小学校教育の連携にかかわる「小 1 プロブレム」という新たな教育状況にも対応できる、これからの教員にとって必要な能力の育成に取り組んでいます。そのために、教員免許状修得に必要とされる最低レベルのカリキュラムに加えて、教育学専攻独自の科目群を配置しています。自らの主体性に基づいた固有の専門性のレベルアップを目指せるゼミ演習指導を充実させるとともに、教育実習を複数校(附属小学校実習を含めて)で行う体制をとっています。さらに、近隣教育委員会との連携によって教育現場体験を積極的にとれる方策を行っています。

教員になった 1 年目から教師としての諸能力を発揮できるとともに、その能力を生涯にわたり伸ばし続けることのできる教師(「学び続ける教師」)の育成こそが、教育学専攻の教育理念であり、目標でもあり

ます。

(5) 発達教育学部教育学科音楽教育学専攻（中一種免（音楽）・高一種免（音楽））

教育学科音楽教育学専攻では、本学の教員養成の理念のもとに、生徒たちの音楽的経験を豊かにすることができる中学校・高等学校音楽科教員の養成を目的として教職課程を設置しています。

本専攻では、学生自らが主体的に音楽を愛し、よく理解し、音楽的経験を日々積み重ねていくことが大切と考えています。そのためには、ピアノや声楽などの実技はもちろん、音楽の理論や歴史に関する幅広い基礎知識を十分身につけ、この世界や人間に対するいきいきとした関心によって豊かなイメージを生み出し、音楽の表現力や理解力を高めることが必要です。それを実現するべく、本専攻ではカリキュラムを編成しています。また、音楽を教えるには、言葉で表現しなければならず、また教える相手のことや学校教育をよく理解しなければなりません。本専攻は教育学科の中に置かれているため、現代の教育学のさまざまな知見を得ることができ、それによって教育現場で柔軟に対応していく力が培われます。

音楽を中核としながら、このように幅広く学ぶことによって、自らの能力を伸ばし続けるとともに、音楽を通じて世界や人間に対する理解を深めることができれば、音楽によって世界や人間に対する関心を広げるような教育を行うことができます。

教員になった 1 年目から教師としての諸能力を発揮できるとともに、その能力を生涯にわたり伸ばし続けることのできる教師(「学び続ける教師」)の育成を目指します。

(6) 発達教育学部児童学科（幼一種免）

児童学科では、本学の前身の一つである昭和 5 年（1930）開設の本派本願寺保姆養成所（昭和 19 年京都保姆養成所に改称）以来、本学の教員養成の理念に基づき、幼稚園教諭の養成に取り組んできました。その結果、地元である京都および近畿圏のみならず、全国に実に多数の教員を送り出し今日に至っています。またその中からは、各地の幼児教育の現場で指導者的役割を担う者も数多く輩出しています。

本学科では、今後の幼保連携型認定こども園への移行の動きなどを踏まえて、就学前のたちの子ども教育・保育の多様な問題に対応できる保育者の育成を目指しています。平成 12 年度には厚生労働省より保育士養成課程の認可を受け、幼保連携を推進し、就学前の子どもたちの保育・教育を担う人材の育成に取り組んでいます。ほとんどの学生が幼稚園一種免許状とともに保育士資格をも取得しています。また、児童学科で学ぶことの特色を発揮して、発達・保健・文化・表現の多様な科目群を配置することにより、理論と実践の両側面からの充実を図っています。さらに、近隣の幼稚園・保育所あるいは児童館などとの連携により、現場体験も確実にできるよう充実した体制を取っています。

多様な教育問題に直面している教育現場において、「学び続ける教師」として積極的に教育問題に対応できる教員の養成を目指します。

(7) 家政学部食物栄養学科（栄養一種免・中一種免（家庭）・高一種免（家庭）・中一種免（保健）・高一種免（保健））

◇栄養一種免

食物栄養学科では、本学の教員養成理念のもとに、社会の幅広い分野で活躍できる食と健康の専門家を養成しています。家庭科教諭（中・高）、保健（中・高）の教員養成において長い歴史を持ち、卒業生は近畿圏のみならず全国において、家庭科教諭や学校栄養士（栄養職員）等として活躍しています。

平成 17 年の栄養教諭資格創設に伴い課程認可を受け、栄養教諭養成に努めてきました。「食育」の重要性など、近時の強い社会的要請を受け、より教員としての資質の高い栄養教諭の育成を目指しています。平成 18 年度から本学附属小学校との小大連携による、「附小ランチ」を実施し、学生が献立を作成し、食育指導を行うことで、食の専門家としての高い知識・技術と教員としての資質向上を目指しています。また、平成 26 年度から学校給食が導入されたことに伴い、食育メモ・媒体作成および食育放送を学生が行っています。また、「お楽しみ献立」と称し、学生自身が生きた教材としての献立作成、食育を実施しています。教材としての学校給食の献立作成、および給食を活用した食に関する指導（給食指導）は極めて重要であり、これらの経験を通じてより実践的な力を身につけた栄養教諭を育成していくことが本学科の教育理念であり、目標です。さらに、京都市内の食育研究指定校等との連携により、教育現場体験を積極的に取り入れ、実践力・コミュニケーションスキルの育成にも努めています。

教員になった 1 年目から栄養教諭としての諸能力を発揮でき、学び続ける教師の育成を、教員養成の目標としています。

◇中一種免（家庭）、高一種免（家庭）

食物栄養学科では、本学の教員養成の理念に基づき、社会の幅広い分野で活躍できる食と健康の専門家を養成しています。多くの学生が、入学時点から栄養教諭や中学校・高等学校の家庭科教諭をめざし、栄養教諭一種免許状、中学校一種免許状（家庭）、高等学校一種免許状（家庭）を取得しています。

本学科の学びの特徴は、「食・栄養・健康」の専門的な知識を深めるところにあります。現在わが国で食物栄養学を学ぶ学科のほとんどの大学が管理栄養士課程ですが、その中で、家庭科の教免を取得できる大学は一部の大学に限られています。本学では、食や食育の専門性を生かして、家庭科の総合力を育成する教育を実践しています。その結果、多くの学生が、家庭科の教員免許状に加えて栄養教諭の免許も取得しています。

このように食や健康についての広くて深い素養を生かし活躍できる教員を育成することが、本学科の教員養成理念であり、教員になった 1 年目から教諭としての諸能力を発揮でき、学び続ける教師の育成を教員養成の目標としております。

◇中一種免（保健）、高一種免（保健）

食物栄養学科では、本学の教員養成理念に基づき、社会の幅広い分野で活躍できる食と健康の専門家を養成しています。

本学科の学びの特徴は、管理栄養士の資格取得をめざすカリキュラムを中心に、「食・栄養・健康」の専門的な知識を深めるところにあります。学校給食を含めた学校保健、食育の推進といった食の重要性を背景に児童生徒等の健康の保持増進を図り、集団教育としての学校教育活動に必要な健康や安全への配慮を行い、自己や他者の健康の保持増進を図ることができるような能力を育成する教育を実践しています。

近年、栄養教諭の創設により、保健の教職免許状を取得する学生が少なくなってきておりますが、学校保健等の知識は極めて重要であり、このように食や健康についての深い素養を生かし、教員になった 1 年目から教諭としての諸能力を発揮でき、学び続ける保健教員を育成することが本学科の教育理念であり、目標です。

（8）家政学部生活造形学科（中一種免（家庭）・高一種免（家庭））

生活造形学科では、本学の教員養成の理念に基づき、学科創設以来、家庭科教諭（中･高）の教員養成を行ってきており、卒業生は関西をはじめ、全国で家庭科教諭として活躍しています。

生活造形学科における学びの特徴は、「意匠･アパレル･空間」の３つの観点から、快適な生活環境・生活空間を創造するための専門的知識を修得することにあり、また、「衣生活領域」「住生活領域」「衣生活・住生活と文化」「持続可能なライフスタイル」「ホームプロジェクト活動」など、家庭科教員に必要な知識の修得と実験・実習を通した技術を体験的に習得させることにあります。家政学部内に設置されている食物栄養学科および生活福祉学科が開設する授業と合わせて単位を修得することにより、中学校１種免許状（家庭)、高等学校１種免許状（家庭）を取得することができます。また、実際の教育現場での体験を行う教育実習で生じる教職に対する不安や課題については、教職実践演習により解決を図るなど知識の定着を目指しています。

生活技術の革新により、生活環境や家庭を取り巻く社会の変化は著しく、快適な生活環境を創造する力がますます求められています。家庭や地域の生活課題に主体的に取り組み生活の充実と向上を図る知識と技術を修得し、中学校･高等学校の家庭科教諭にむけての学びを通して主体的に他者との相互理解につとめ、柔軟な姿勢で予期せぬ変化に対処しうる人材の育成、教員としての倫理観・責任感を持った人材の育成を目指しています。

教員になった１年目から教師としての諸能力を発揮できるとともに、その後も学び続ける教師であることを教員養成の目標としています。

（9）家政学部生活福祉学科（中一種免（家庭）・高一種免（家庭）・高一種免（福祉）・養護教諭一種免）

◇中一種免（家庭)、高一種免（家庭）

生活福祉学科では、本学の教員養成の理念を基礎に、京都を中心とする近畿圏のみならず、全国の中学・高等学校の教員を輩出し、その成果を社会全般に還元しています。

本学科では、家庭科教員免許状取得に必要とされる最低レベルのカリキュラムに加えて、学科独自の科目群を配置しており、生活を主軸として、すべての「人」が心豊かに生活できるよう幅広く福祉の問題を学びます。このことが教育における様々な問題に取り組み対応できるこれからの教員にとって必要と考えられる能力の育成につながると考えます。また専門知識については生活福祉学科教員のみならず、同じ家政学部の食物栄養学科、生活造形学科の教員による科目も配置しています。3 回生からは自らの主体性に基づいた固有の専門性のレベルアップを目指せるゼミ演習指導を充実させています。また教育実習を行うことにより実際の教育現場を体験し、教職実践演習を通して、教員としての能力の定着をめざします。

教員となった１年目から教員としての諸能力を発揮できるとともに、その能力を生涯にわたり伸ばし続けることのできる教員の育成を目指しています。

◇高一種免（福祉）

わが国において少子高齢化が加速するなかで、豊かで安定した社会と生活を維持向上することを当初の理念として平成 16 年 4 月に生活福祉学科を家政学部に設立しました。

高等学校教諭一種免許状（福祉科）を取得する者には、高い倫理観を持ち、生徒から信頼され、生徒の悩みや家族への支援を行う幅広い知識と技術を備えた資質が求められます。そのためには、現代社会における諸問題を的確に捉え、問題発生の根拠や原因、対処法等を学ぶ必要があります。

少子高齢化を背景に、医療・保健・福祉の連携が図られており、各分野と協働しながら問題解決に挑む姿勢が求められています。また、グローバル社会に対応できる国際的な視点も必要になっていて、経済的状況による貧困や格差社会、高齢者介護、児童虐待や障害者支援等、世界共通の社会問題に対して、どのように解決法を見出していくかが問われています。教育分野では、近時は、とりわけ社会にとって貴重な次代を担う児童 ・生徒が身体的、精神的かつ社会的に健全に育成していくことが希求されています。

このような現代社会の諸問題に対応するために、福祉における制度・政策、法律、経済をはじめ、地域社会や家庭環境、対人援助システムやコミュニケーション能力等、多様な知識と技術を身につけることを、本学科での教育目標としています。教育実習や介護実習による現場経験を踏まえ、事前・事後学習を行いながら、学生が理想の教師像に近づけるよう取り組み、理論と実践力を、効果的に育成します。

◇養護教諭一種免

わが国において少子高齢化が加速するなかで、豊かで安定した社会と生活を維持向上することを当初の理念として、平成 16 年 4 月に生活福祉学科を家政学部に設立しました。

養護教諭は、児童 ・生徒の心身の健康管理を行うと同時に、学校の保健教育の担い手にもなります。それだけに医療・看護・保健衛生などの幅広い知識と、生活科学、地域社会にまで及ぶ視野を持つことが必要とされます。また、今日では身体上の問題を持つ児童・生徒ばかりでなく、身体の不調を訴えながら心の病を持つ児童・生徒たち、社会経済問題を抱えた児童・生徒たちが増えています。このような児童・生徒たちを優しく受けとめ、励まし、導いていけるような豊かな人間性も求められます。家政学及び福祉の広汎な分野を学び「生活者」の視点での考えを持った女子大生が養護教諭となり、未来を有し発達途上の児童・生徒たちに接し、「生かし 育てる」ことはとりわけ望ましいことです。

本学科は、すでに多くの養護教諭を近畿圏のみならず全国に輩出しており、教育体制の強化を行い社会の変遷に柔軟に対応しながら、自ら課題を発見し、高い倫理観と責任感をもって想定外の困難に対しても立ち向かえる養護教諭の養成に取り組んでいます。

（10）現代社会学部現代社会学科（中一種免（社会）・高一種免（公民）・高一種免（情報））

◇中一種免（社会）・高一種免（公民）

現代社会学科では、本学の教員養成の理念を基礎に、現代社会におけるさまざまな問題を多角的に認識したうえで、その解決のため他者と創造的に協働することの重要性と方法を生徒たちに伝えることができ、自身も生涯その知識と能力を伸ばす努力を行う、高い倫理観と責任感を持った教員の養成を目指しています。

現代社会学科では、このような教員の養成をできる科目群を教職課程として配置し、とりわけ、教科に関する科目である、「法律学、政治学」、「社会学、経済学」、「哲学、倫理学、宗教学、心理学」については充実したプログラムを提供しており、まさに社会科・公民科教員養成に相応しい科目構成となっています。これら科目を修得し教員養成課程を修了した学生たちは、社会に貢献しうる教員として大きな役割を果たすと考えられます。これらの科目に加えて、現代社会に関する幅広い分野の科目の履修により、複眼的視野から発想する力やそれを実現するスキルを身に付けた人材の育成が可能です。

教員となった 1 年目から教員としての諸能力を発揮できるとともに、その能力を生涯にわたり伸ばし続けることのできる教員の育成を目指しています。

◇高一種免（情報）

現代社会学科では、本学の教員養成の理念を基礎に、現代社会におけるさまざまな問題を多角的に認識したうえでその解決のため他者と創造的に協働することの重要性と方法を生徒たちに伝えることができ、自身も生涯その知識と能力を伸ばす努力を行う、高い倫理観と責任感を持った教員の養成を目指しています。

本学科では、このような教員の養成をできるような科目群を教職課程として配置し、とりわけ、情報

分野に関しては情報科学、情報工学系の科目および情報技術と社会の接点を学ぶ科目を提供しています。さらに、社会基盤の一つとなっている情報社会や情報倫理への深い理解を身につけ、情報システムや情報通信ネットワークを深く理解できることを目標に、高度なプログラミングやネットワーク運用のスキルや、人間とコンピュータの関係や情報技術者の社会的責任について理解を深めるための科目も提供しています。これらは高等学校情報科の教職課程で求められる内容とも合致しており、教員養成課程を修了した学生たちは、社会に貢献しうる教員として大きな役割を果たすと考えられます。これらの情報分野の科目に加え、現代社会に関する幅広い分野の科目の履修により、複眼的視野から発想する力やそれを実現するスキルを身につけた人材の育成が可能です。

教員になった１年目から教諭としての諸能力を実践的に発揮でき、学び続ける教員養成を目指しています。

（11）法学部法学科（中一種免（社会）・高一種免（公民）

法学部法学科では、「高度の専門性」・「高度の人間性」・「高度の共感性」の三者を身につけた教員を養成することを目標としています。本学科の教育課程により、高度な専門的知識を身につけると同時に、社会における多様な立場の人々への理解と共感に基づいた人権意識を持つことが可能となり、上記「高度の専門性」・「高度の人間性」・「高度の共感性」を身につけた教員の養成が可能となると考えています。

法学は、現代社会における最も重要な社会システムの一つを対象とする学問領域であって、現代社会を理解し、市民として生活し、よりよい社会を構築していくために、法学専門教育を受けた教員は大きな役割を果たすと考えられます。また、本学科の「法化社会の中で、社会の法的諸問題を自ら発見し、その解決に主体的に取り組み、法的処理する実践的能力を持つ「女性の知性と人間性」の涵養」という教育目標のもとに育成された人材こそが、子どもたち一人ひとりを、21 世紀にふさわしい市民意識を持つ社会人となるよう、育み、共感を持って支援し、エンパワメントできる教員となると考えられます。

教員になった１年目から教員としての諸能力を実践的に発揮でき、学び続ける教員養成を目指しています。